



教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和5年 夏休み号
児童数396名 文責 澤村幸夫



朝顔 アサガオ

1年生が大切に育てた「アサガオ」の花が鮮やかに咲いています。色とりどりで、赤・紫・水色・青・ふちどりなどさまざまです。

アサガオの花が咲くのは、早朝です。右の写真は朝の7時半ごろ撮りましたが、すでに花びらがしおれているものもありました。まだうす暗く、明かりをつけなければまわりの様子が見えない時間に咲くのです。ということは、アサガオの花は、朝の明るさによって咲くというわけではなさそうです。調べてみると、実は、前日の昼の長さに関係があるようです。

アサガオのつぼみは、前日の昼間のうちにたっぷりと太陽の光をあびたあと、暗くなってから、およそ9時間後に開くという性質を持っています。このため、朝、明るくならなくても暗いうちから花が開くということになります。この性質がわかれば、明日の朝何時に花が咲くのかがわかります。夕方に光を当てておくと、翌日の開花時間を調節することもできます。本当に開花時間を調節できるのか、また、違う植物にも同じような性質があるのかを実際、自分の手で調べてみるのもおもしろいと思います。ネットで調べたものを、そのまま信じるのではなく、自分の手で確かめてみるのです。

「知的好奇心」とは、物事に対し興味・関心を持ってより深く知りたい、または調べたいという欲求や気持ちを意味しています。子どもたちは、生まれながらにして、高い知的好奇心を持っています。「なぜ、なぜ?」「どうして?」こんな質問を子どもたちはよくします。この「知的好奇心」は学習面にもプラスな影響を及ぼすことが分かっています。周囲の大人の関わりが、子どもの知的好奇心に良い影響も悪い影響も及ぼしていくように思います。

まずは、大人自身が好奇心を持つことを意識して生活することです。子どもから聞かれた物事を一緒に考えたり悩んだりすることが必要です。さらに、子どもからの質問に対して、すぐに答えを教えるのではなく、子ども自身が探求し行動する機会をつくることだと思います。質問を否定したり、てきとうに扱ったりすることは、子ども自身が知的好奇心を抑え込んでしまう可能性があります。また、知的好奇心を刺激されて意欲的に行動を起こしたとき、大人が子どもの行動を制限したり、別のことを押し付けたりすることは、子どもの知的好奇心を奪うきっかけになることがあります。

子どもの知的好奇心を高めるためのヒントを考えてみました。1つ目は図鑑や本、新聞を読むことです。和邇小学校の「読書調査」では、子どもたちの「読書量」は明らかに増えています。前年度の約3倍という結果も出ています。

本は新しい発見をもたらす、感動と勇気を与えてくれます。読む人の心に小さな種をまき、時間をかけてゆっくり育ち、根となっていきます。2つ目は、外に出て自然と触れ合うことです。自然には、子どもの好奇心を刺激する材料が数多くあります。疑似体験ではなく、直接的な体験や経験をすることです。「いつもと違うところに出かける」ことで知的好奇心が高まり、その後の生活を豊かなものにしてくれます。さあ、この夏休みがチャンスです。



和邇小学校の
ホームページ

和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。

1年 おおきなかく

1年生では、「おおきなかく」の劇をしました。何度も練習して、セリフは全部おぼえられました。からだの動きで表現したり、元気な声で発表したりすることができました。何よりみんなが楽しんで発表できていたことが素晴らしいです。



2年 なにが生まれた？

「ふしぎなたまごから生まれたよ。どんなものが生まれたか想像を広げよう」と題して、2年生では、想像力をはたらかせて、空想の絵を描きました。カラフルでユニークな作品ができあがりました。



3年 風のはたらき

3年生の理科では、風の力で車を走らせる実験をしました。風の強さによって物の動き方がどう変わるかを調べます。



4年 夏さがし

4年生は、和邇公園に「夏さがし」にでかけました。全員がタブレットを使い、生き物を探して撮影しました。「春さがし」とは違い、植物や昆虫、水生生物やキノコ類など、たくさんの「生き物」に出会いました。学校に戻り、撮影した各自の「生き物」を図鑑にしました。



5年 着衣水泳



5年生では、まさかの時の着衣水泳を学習しました。水難事故は水着を着ていない時にも起こります。川や水辺で、普段着の

ままおぼれることがあります。着衣水泳を経験することで、少しでも水難事故から自分の命を守ることが出来るよう取り組んでいます。この夏休みに、しっかり対策をすることで、事故から自分の命を守りましょう。

6年 せんたく

家庭科の学習で「せんたく」をしました。日常生活を送るうえで、料理や洗濯、掃除など身に付けなければいけないことがたくさんあります。便利な機械がそのほとんどをこなしてくれますが、何事にも基本が大切です。



情報モラル教室



4年生から6年生で、「情報モラル教室」を開催しました。私たちの周りには、インターネットにつながったタブレットやスマートフォン、ゲーム機器などであふれています。いろいろな「モノ」もネットにつながる時代です。たいへん便利ですが、使い方を誤ると、たいへんなことになります。規制する法律も、どんどん変わってきています。SNSを介したトラブルや犯罪に巻き込まれることもあります。依存症という脳の発達にも悪影響があります。最新の情報に敏感になり、危機回避に努めたいものです。

シリーズ ウェルビーイング 子どものWell-being 第4弾 「try and error」



学校のアクアテラリウム
本文との関連はありません。

Well-being とは、心身とも満たされた状態を表すもので、「幸福」とも訳されます。現在、あらゆる分野で注目を浴びていて、さまざまな調査や研究がなされています。子どもたちが、自分が幸せだと感じると、学びのパフォーマンスが向上し、学級や学校に良い影響をもたらすことになります。当然、学力も向上し、意欲向上とともに生活が安定します。

では、いったいどうすれば、「子ども自身が幸せだと感じるか」ということになりますが、シリーズ第4弾は「try and error」（トライ アンド エラー）です。日本語で言うところの「試行錯誤」です。

「try and error」は、正しい英語ではなく、正しくは「trial and error」（トライアル アンド エラー）が正しい言い方だそうです。子どものころは、「興味あることに積極的に取り組むことが大切で、失敗を恐れずにやって

みよう」といったときに使われます。正しい英語表現ではないですが、意味が通じるようになっていて、日本語として定着しているように思います。

以前紹介した植松努さんの、「未来とは、可能性をあきらめて、今の自分にできる範囲から選ぶものではありません。本当の夢とは、やってみたいことをどうやったらできるかなと考えて、やり始めることです」という有名なフレーズがあります。これはと思ったことに、失敗を恐れず取り組んでみる。その中で新しい発見や物事の奥深さなどに気づき、さらに興味が深まっていく。失敗しても、どこに問題があり、どうすればうまくいくのかを考えられるようになる。学びの本質をついています。学習面だけでなく、大人へと成長していく過程でも大変重要なことだと思います。友だち同士のちょっとしたトラブルや意見の違いから、ある時はエスカレートして喧嘩になることもあると思います。友だちとのトラブルを恐れて、自分から引いてしまうということもあるかもしれませんが、実は、自分と他人の違いを探し、自分を見つけていくとても重要な過程であり、これらを経験し、乗り越えて「自律」した大人へと成長していくのだと思います。

「try and error」は、大人から「やりなさい」ではなく「やってみたら」と一緒に悩んでみる、あくまで「自分が選んでやる」「自分の意志でやる」ことを明確にしたすばらしい言葉です。



創立 150 周年記念特別企画

11/24 実施決定！！

「夢をあきらめない：植松努さん講演会とロケット教室」

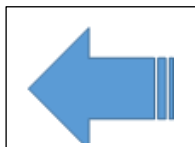
そして、この度、「夢をあきらめないことの大切さ」を伝える活動をされている植松努さんが、はるばる北海道から和邇小学校の子どもたちのために来校され講演していただくことになりました。11月24日（金）の午前に実施予定です。植松努さんは、北海道で生まれ、植松電機にてロケット事業、無重力状態の開発を手がける一方、「どうせ無理」という言葉をなくすために、講演やモデルロケット教室を通じて、多くの子どもたちに「夢をあきらめないこと」の大切さを訴えられています。当日は、上学年、下学年に分かれ、それぞれ講演をいただくとともに、卒業をひかえた6年生にロケット教室をしていただきます。打ち上げは全校で見守りたいと思います。保護者や地域の皆様も、ご希望がございましたらご参観ください。詳しい案内は後日配布します。

植松努さん紹介動画

紙面
配布
のみ
表示



期間限定 7/20～9/30



動画は
こちら

